留学生による日本語スピーチコンテスト

1 位 谷 人旭　　2 位 DONNY ACHIRUDDIN
3 位 NOOR AIZAH ABAS　　特別賞 張 愛花

昨年の十一月四日(土)大学会館大集会室で、統合移転完了記念事業の一環としてスピーチコンテスト部会によるイベントが実施されました。

まず、午前十時から「留学生による日本語スピーチコンテスト」が開催され、「新しい広島大学に期待するもの」「広島に留学して思うこと」というテーマで応募があったなかから十名の留学生の発表がありました。

発表者は別表1のとおりで、日常の生活体験及び勉学体験からの発表や新しいキャンパスでの生活の不便を感じての提言まで、流暢な日本語でユーモアを交えての発表が続きました。

審査は、「主張」「構成」「話し方」「語句の使い方」「聴衆の拍手」の五項目について行われ、成績は表記のとおりでした。

当日は、優秀な発表が多かったので、予定した賞のほかに急遽特別賞が設けられ、広島修道大学の張愛花さんに贈られました。

第一位に輝き副賞の五万円を手にした、社会科学研究科博士課程後期に在籍中の中国からの留学生、谷人旭さんの発表の要旨を紹介します。

広島に留学して思うこと ―広島での〝平和〟―

写真・谷 人旭
Gu, Renxu

広島に留学する前、〝広島〟という都市のイメージについてはただ一つしか持っていなかったが、それは「かつて原子爆弾を投下された都市」です。

広島に来ていろいろなことを見て、体験して、たとえば、街のところどころに所在している各種の〝慰霊碑〟や〝平和公園〟、〝原爆ドーム〟、〝毎年大勢の小学生・中学生・高校生たちが広島への被爆修学旅行〟、〝被爆者自身の悲痛の紹介〟、〝被爆ビデオでの説明〟、〝平和の象徴としての驚くほど多くのハト〟、〝毎年行われている被爆記念式〟…などを通して、広島での人たちが平和を追求する心と気持ちを強く感じとったのです。

しかし、それと同時に、さまざまな不思議なことにも遭いました。たとえば、

①修学旅行で広島に来た生徒たちに聞いて、あるいは、普段大学で日本人学生と話した時に、五十年前に中国と日本との間に発生したことを知る人はほとんどいないことに驚かされました。それはなぜですか？

②〝中国〟という国あるいはアジアという地域はどこにあるかをなかなかうまく回答できない若者たちの人数が少なくない。それと反対に、アメリカという国しか知らない人が数多い。それはなぜですか？

③被爆五十年を経た現在でも、広島で依然として〝国家責任〟を強く追求していることはなぜですか？